

都市再生整備計画

きたもとえき きたもとし やくしよしゆうへん ち く
北本駅・北本市役所周辺地区

さいたま きたもとし
埼玉県 北本市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	埼玉県	市町村名	北本市	地区名	北本駅・北本市役所周辺地区	面積	47 ha
計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 9 年度	交付期間	令和 7 年度 ~ 令和 9 年度				

目標

- 大目標: 少子高齢化時代に対応した市民交流拠点の充実とコンパクトなまちの実現
- 目標1: 公共施設の集約化、長寿命化による行政コストの削減
- 目標2: 駅の機能向上による利用者の利便性の向上
- 目標3: 防災力の向上による安心・安全なまちの実現

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

北本市では、市の最上位の計画である「第五次北本市総合振興計画後期基本計画」を令和4年3月に策定し、「緑にかこまれた健康な文化都市 ～市民一人ひとりが輝くまち 北本～」を将来都市像に掲げ、市を挙げて市民との協働による持続可能なまちづくりを進めている。

その上で、総合振興計画に位置付けられた施策である「豊かな住環境の整備」、「バランスのある土地利用の推進」、「道路、上・下水道、河川の整備」の実現に向け、「北本市都市計画マスタープラン」を令和2年3月に改定し、『コンパクト・プラス・ネットワーク(立地適正化)』の考え方に基づく『まちづくり』を今後の方向性とし、計画的に都市計画を進めてきたところである。

令和6年度現在では、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を具体的に進めるため、令和7年度末の完成を目指し、立地適正化計画の策定に着手している。

北本駅・北本市役所周辺地区(以下、「当地区」という。)は、市で唯一の鉄道駅であるJR北本駅と北本市役所を含む地区となっており、商業等の都市機能の集積が進むとともに行政、文化、コミュニティ拠点の中心地である。当地区の東側で、市の中央部に位置する北本駅前広場については、交通結節点としての役割を担うとともに、近年は、西口駅前広場において、キッチンカーの出店によるマルシェ等のイベントが開かれるなど、人が集まり、つながることで新しい価値が生み出される「交流拠点」としての役割も担っているところである。

また、北本市都市計画マスタープランにおいて、駅周辺地域については、「魅力と活力のある、北本市の“顔”づくり 中央」を将来地域像に掲げており、コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの中核として、駅東西の連携機能や商業等の都市機能の充実を図ることとしている。

特に北本駅東口については、駅に至る都市計画道路中央通線の整備も進み、駅前広場のさらなる利便性や快適性の向上が求められているところであり、街の玄関口でもあることから、市を象徴する景観づくりを積極的に進めたいと考えている。

一方で、当地区の西側に位置する北本市役所や隣接する北本市文化センターは、文化行政拠点として、市民の文化活動を支え、育んでいく役割を担った拠点であることから、市民交流の核として、その機能を充実することとしている。

このうち、北本市文化センターでは、ホールでの成人式、演劇、音楽等の講演や、図書館、公民館において、市民の教養の向上及び文化の発展に寄与し、令和5年度の年間総利用者数は20万人を超えている。

このように、当地区は、これら市の発展に必要な機能を含めた重要エリアであり、市民交流の中心拠点としての機能を充実する必要があることから、社会資本整備総合交付金を活用して、その実現を図ろうとするものである。

課題

- 本市の人口は平成17年をピークに減少傾向に入り、令和6年4月現在約6万5千人となっている。少子高齢化も進行し、本市の合計特殊出生率は令和4年時点で1.09となっており、鴻巣保健所管内や埼玉県と比較しても低い水準で、高齢化率は令和6年4月時点で33.0%となっている。少子高齢化に伴う、税収の減少や社会保障費の増加による行政サービスの低下が懸念されている。
- 本市では、市制施行した昭和46年の前後である昭和40年から昭和50年代にかけて公共施設の多くを整備しており、これらの多くの施設が更新時期を迎えている。現在の施設を全て同じ規模で維持することは困難であることから、公共施設の集約を図る必要があるが、北本市文化センターについては、市民に愛された本市のシンボリックな施設であることから、継続することとしている。北本市文化センターと多目的ホールを除く市民文化系施設については、現在の8拠点から4拠点とすることが決まっており、北本市文化センターの文化系施設としての価値がさらに高まっている。また、広域避難所にも設定されており、災害時にはその機能も期待されることではあるが、非常用発電機が突然止まる不具合が発生しており、いざという時にその機能を発揮できない恐れがある。この他にも開館から40年が経過したことから、様々な不具合が発生しているため、長寿命化を図る必要がある。
- まちの中心地である駅について、西口には歩行者用のシェルターがあるが、東口はまだ整備されていない。このため、雨天時、両階段出口付近において、歩行者の滞留が発生し、一般車両やバス停、身障者の車両へのスムーズな乗り入れに支障をきたしている。また、既設の西口の歩行者用シェルターについては、屋根やトッパイト周囲から漏水が見られ、一部の天井材料が剝離するなど、落下の危険性があるほか、腐食等により、景観にも影響が出ている。さらに、照明が暗いことから、改善して欲しい旨市民要望が出ており、市の顔としての駅前広場整備が求められている。
- 本市は一人当たりの都市公園面積が令和5年度末で10.6㎡となっており、緑の基本計画に位置付けられている目標値の12.0㎡に届いておらず、子どもの遊び場・市民の憩いの場である公園の整備が追いついていない。特に、旧栄保育所と統合した旧中央保育所の跡地がある本町3丁目には、地元自治会からの要望を受け、防災上の観点も含め、令和4年第3回北本市議会定例会において「中央保育所跡地を街路公園に整備する請願」が採択されている。

将来ビジョン(中長期)

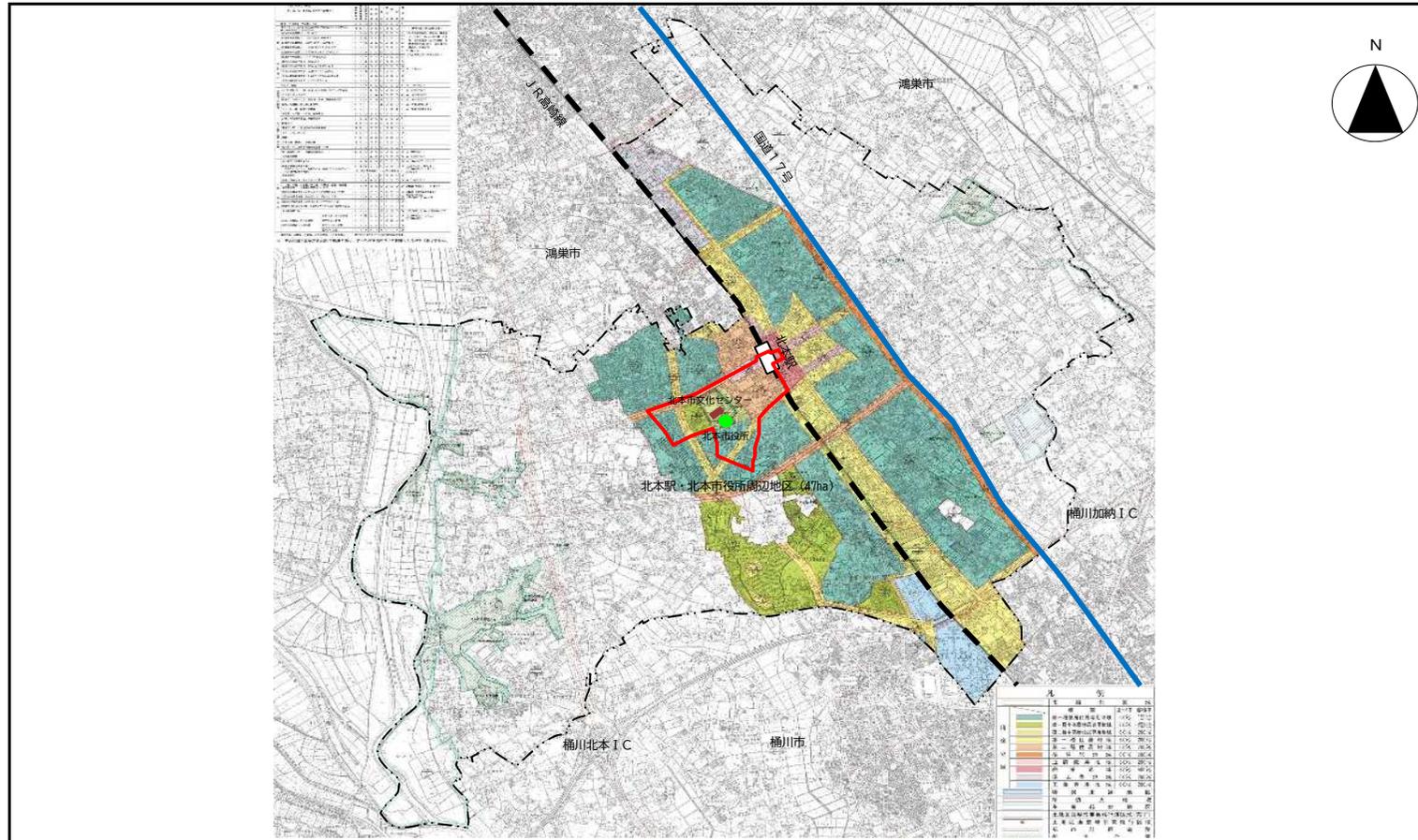
- 第五次北本市総合振興後期基本計画(令和3年度策定)
 - 市民との協働による持続可能なまちづくり(基本理念)
 - 緑にかこまれた健康な文化都市 ～市民一人ひとりが輝くまち 北本～(将来都市像)
 - 環境保全・交流ゾーンから行政・文化拠点および北本駅を経て健康・スポーツ拠点までを結ぶ「東西軸」と、中山道や北本中央緑地によって形成される「南北軸」の二つをにぎわい・交流の中心となる都市軸として位置づけ、活力を創出(土地利用の基本的な考え方)
 - 施設再編をはじめ資産管理を適切に行う
 - 行政サービスや財政運営の見直しを進める
 - 文化センターについて、市民の交流や防災の拠点とする
 - 安心で災害に強いまちとなるよう、災害時に適切な支援や情報提供を行うとともに、防災施設の充実と支援体制の整備に努める
- 北本市都市計画マスタープラン(令和元年度策定)
 - 適正な将来人口規模を踏まえた立地適正化の考え方に基づく、効率的なまちづくりを目指す
 - 北本市役所、北本市文化センター周辺については、行政、文化、コミュニティ機能の拠点として、その利便性の向上に努める
 - 市指定の緊急輸送道路(市道12号線)については、道路の耐震性の向上に努める
 - 北本駅は誰にとっても使いやすく、より利便性の高い駅前広場の創出を目指す

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
文化センター利用者数	人	北本市文化センターの利用者数	文化センター大規模改修工事による利便性の向上による、利用者数の増加を測る指標	200,492人	R5年度	250,000人	R10年度
生涯にわたって学習に取り組んでいる市民の割合	%	市民アンケートで「生涯にわたって学習に取り組んでいる」と答えた市民の割合	文化センター大規模改修工事による利便性の向上による、地域交流や生涯活動、文化活動の活性化を図る指標	55%	R5年度	60%	R10年度
北本駅周辺のまちづくり満足度	%	市民アンケートで「北本駅周辺のまちづくり」について「やや満足」、「満足」と回答した市民の割合	北本駅東口屋根整備事業等による駅周辺の利便性の向上、景観の形成などの満足度を測る指標	16%	R6年度	27%	R9年度
安全で安らげる空間・住環境となるような土地利用や開発ができていて感じる市民の割合	%	市民アンケートで『安全で安らげる空間・住環境』となるような土地利用や開発等がなされている」として「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合	公園の整備や良好な住環境の形成、都市景観の形成等により、『安全で安らげる空間・住環境』となるような土地利用や開発ができていくか確認する指標	56%	R5年度	63%	R8年度
文化センター施設稼働率	%	北本市文化センターの会議室、研修室等の年間稼働率	文化センター大規模改修による施設稼働率の上昇により、行政コストの削減を図る指標	44%	R5年度	50%	R10年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 公共施設の集約化・長寿命化を図り行政サービスの効率化に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用年数の経過により劣化した機能・性能の回復を図るだけでなくバリアフリーや省エネ等、要求性能の変化により陳腐化したものの向上を図る。 ・社会構造の変化や新たなニーズへの変化等に対応した施設の機能・性能の向上を図る。 ・施設の長期活用とコストの縮減等を重視した改修を行う。 ・統廃合された施設の有効活用を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北本市文化センター大規模改修工事 ・北本駅西口駅前広場シェルター改修工事 ・本町3丁目公園整備工事 ・市道6334号線道路改良事業
<p>整備方針2 市の顔である駅前を整備し、利用者の利便性の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照度を高くすることで快適な歩行空間の創出を図る。 ・他市の駅前広場にはない豊かな自然が残されているため、この環境を活かした空間づくりを行う。 ・身障者も快適に利用できるよう配慮する。 ・『豊かな自然環境をテーマとした機能的でモダンな空間デザイン』をデザインコンセプトに、北本市の顔となる整備を行う。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北本駅西口駅前広場シェルター改修工事【再掲】 ・北本駅東口駅前広場屋根整備事業
<p>整備方針3 防災力の向上による安心・安全なまちの実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時にも安全に避難できる施設とする。 ・緊急輸送道路について、改築工事を行い、舗装の強度を向上させる。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北本市文化センター大規模改修工事【再掲】 ・市道12号線舗装改築事業
<p>その他</p>	

北本駅・北本市役所周辺地区(埼玉県北本市)	面積 47 ha	区域 北本市中央1丁目～中央2丁目、中央3丁目の一部、西高尾1丁目の一部、西高尾3丁目の一部、西高尾4丁目の一部、本町1丁目、本町2丁目の一部、本町3丁目、本町4丁目の一部、本町6丁目、本町7丁目の一部、北本1丁目の一部、緑1丁目の一部、緑2丁目の一部
-----------------------	----------	--

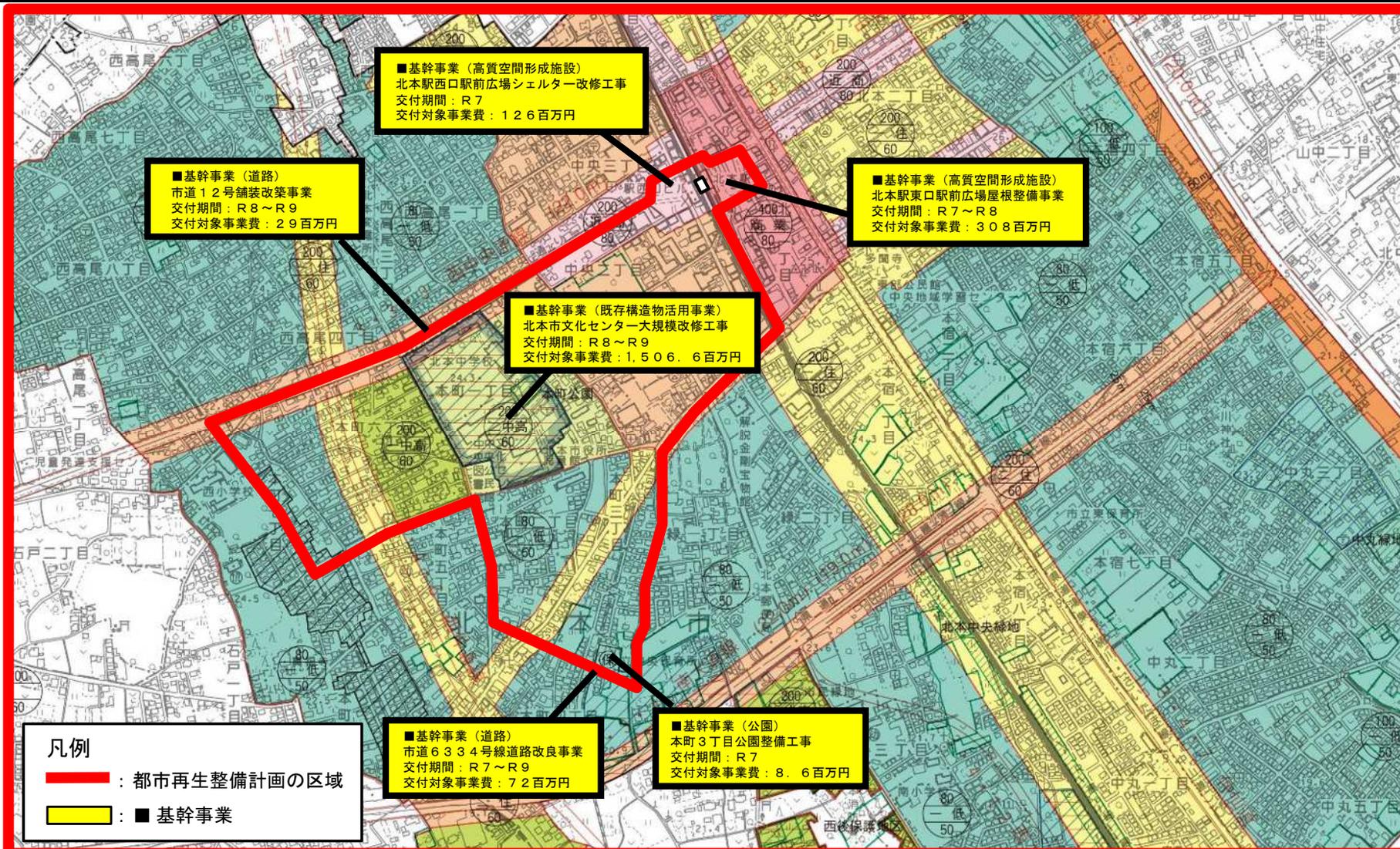


凡例

- 都市再生整備計画区域
- 官公庁
- 国道
- 鉄道(JR)

北本駅・北本市役所周辺地区(埼玉県北本市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金))

目標	大目標: 少子高齢化時代に対応した市民交流拠点の充実とコンパクトなまちの実現	代表的な指標	文化センター利用者数 (人)	200,492人 (R5年度)	→	250,000人 (R10年度)
	目標1: 公共施設の集約化、長寿命化による行政コストの削減		生涯にわたって学習に取り組んでいる市民の割合 (%)	55% (R5年度)	→	60% (R10年度)
	目標2: 駅の機能向上による利用者の利便性の向上		北本駅周辺のまちづくり満足度 (%)	16% (R6年度)	→	27% (R9年度)
	目標3: 防災力の向上による安心・安全なまちの実現		安全で安らげる空間・住環境となるような土地利用や開発ができていると感じる市民の割合 (%)	56% (R5年度)	→	63% (R8年度)
			文化センター施設稼働率 (%)	44% (R5年度)	→	50% (R10年度)



凡例
 : 都市再生整備計画の区域
 : ■ 基幹事業

0 500m